

水堰橋（せい志く橋）

水堰橋は、小袋谷公会堂の近くの小袋谷川に架かる橋で小袋谷と台を結んでいます。又、鎌倉道が橋の手前で戸塚道と藤沢道に分かれ、橋の向こうで更に江ノ島道が分かれる分岐点だった水堰橋は、昔は交通の要衝でもありました。

橋の左右の欄干に水堰橋と書かれた看板が取り付けられていますが、橋のたもとにせい志くばしと刻まれた石柱も立っています。かまくら子ども風土記に別名せいしく橋とも言々と書かれています。

水堰橋の名が付けられたのは、橋の近くに堰が設けられていた時があつたからではないかと考えられます。

せい志く橋の名の由来はいくつかの説があり、源頼朝の軍勢が鎌倉を出入りする時に必ずここで勢揃いをして隊列を整え行進したので、この橋を勢揃い橋と呼んだのがいつの間にかせいじく橋又はせいしく橋になったとか、この橋の辺りで鎌倉入りの御家人が列を静粛にしたので静粛が訛ってせいしくになったとか、水堰橋のすいせきが訛ってせいしくになったという説もあります。明治政府によって作成された皇国地誌には、水堰橋にせいじくばしと読みがなが付けられています。どれが正しいのかわかりませんが、水堰橋よりせい志く橋の方が古名のよう
な気がします。